

日本計画行政学会

第 42 回全国大会

研究報告・ワークショップ

要旨集

令和元（2019）年 9 月 12 日（木）～14 日（土）

徳島文理大学徳島キャンパス（徳島市山城町西浜傍 180）

大会テーマ：地方創生大競争時代と計画行政

日本計画行政学会 第42回全国大会

■日 時：2019年9月12日（木）～14日（土）

■場 所：徳島文理大学徳島キャンパス（徳島市山城町西浜傍示180）

■大会テーマ：地方創生大競争時代と計画行政

■大会要旨：

2014年9月に「まち・ひと・しごと創生本部」が設置されて以来、特区の創設や政府機関の地方移転、各種の人材支援などの政策が順次実施されています。ただし、各自治体から見て、これらの中心をなすのは「新型交付金」であり、各自治体は「地方版総合戦略」を策定し、「KPI（重要実績評価指標）」を設定して、それぞれの独自な取り組みにより地域の活性化を目指すべし、とされています。すなわち、国による地方創生の大号令の下、例外なく財政状況が乏しい各地の自治体は、まずルールに則り交付金等を確保せねばならず、その上でさらに実施した施策の成果を試されるわけです。つまり、以前のように自治体を一律に扱うという状況ではなくなっているということであり、これはまさしく「大競争時代」と表現されうるものでしょう。

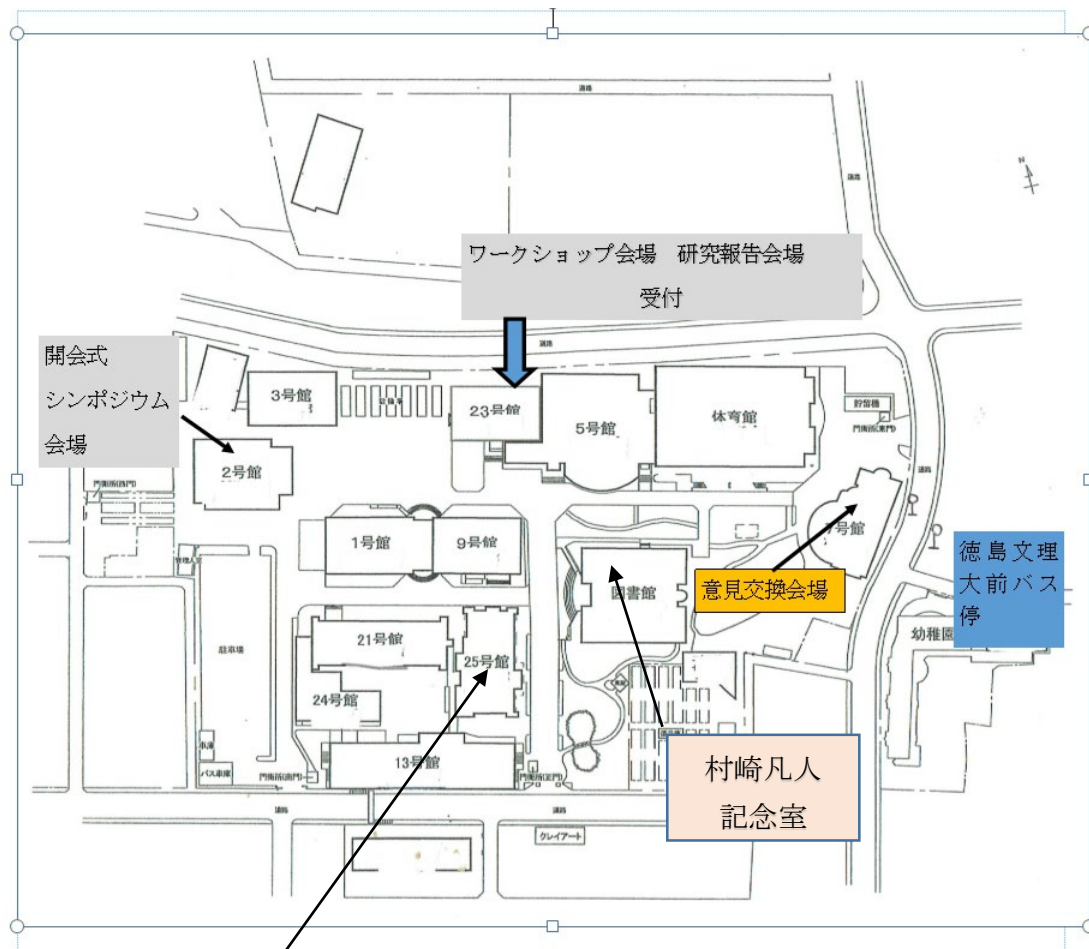
他地域に先んじて人口減少及び高齢化が著しい四国の状況を鑑みると、この大競争時代を乗り切るだけの創意工夫を発案し、早急に実行に移していくことが喫緊の課題となっています。具体的には、街づくり、公共交通、移住の促進、農商工の連携、地域資源の活用などの諸分野で、優れたコンセプトと実行力を備えた体制づくりを行っていかねばなりません。そして、その推進を行う上で得られた各種の知見をどのように行政に取り込むべきなのか、このことがまさに計画行政に求められているのでしよう。

そこで、今大会では、シンポジウムにおいて、このような状況に直面している四国から、特徴ある取り組みを行っている自治体等に登壇していただき、その詳細な内容をお伝えいただきます。その上で、みなさまとのさまざまな建設的な議論が交わされるのを期待しております。また、報告やワークショップではさまざまな視点からの議論を期待します。

■大会役員組織体制

大会会長	山中英生（徳島大学教授）
大会顧問	近藤光男（徳島大学名誉教授） 西川政善（徳島文理大学教授）
大会組織委員長	正岡利朗（高松大学教授）
大会プログラム委員長	青野透（徳島文理大学教授）
	副委員長 松村暢彦（愛媛大学教授）
	副委員長 矢部拓也（徳島大学教授）
大会運営委員長	松村豊大（徳島文理大学教授）
大会事務局長	関丈夫（香川高専教授）
	次長 近藤明子（四国大学准教授）

会場案内図

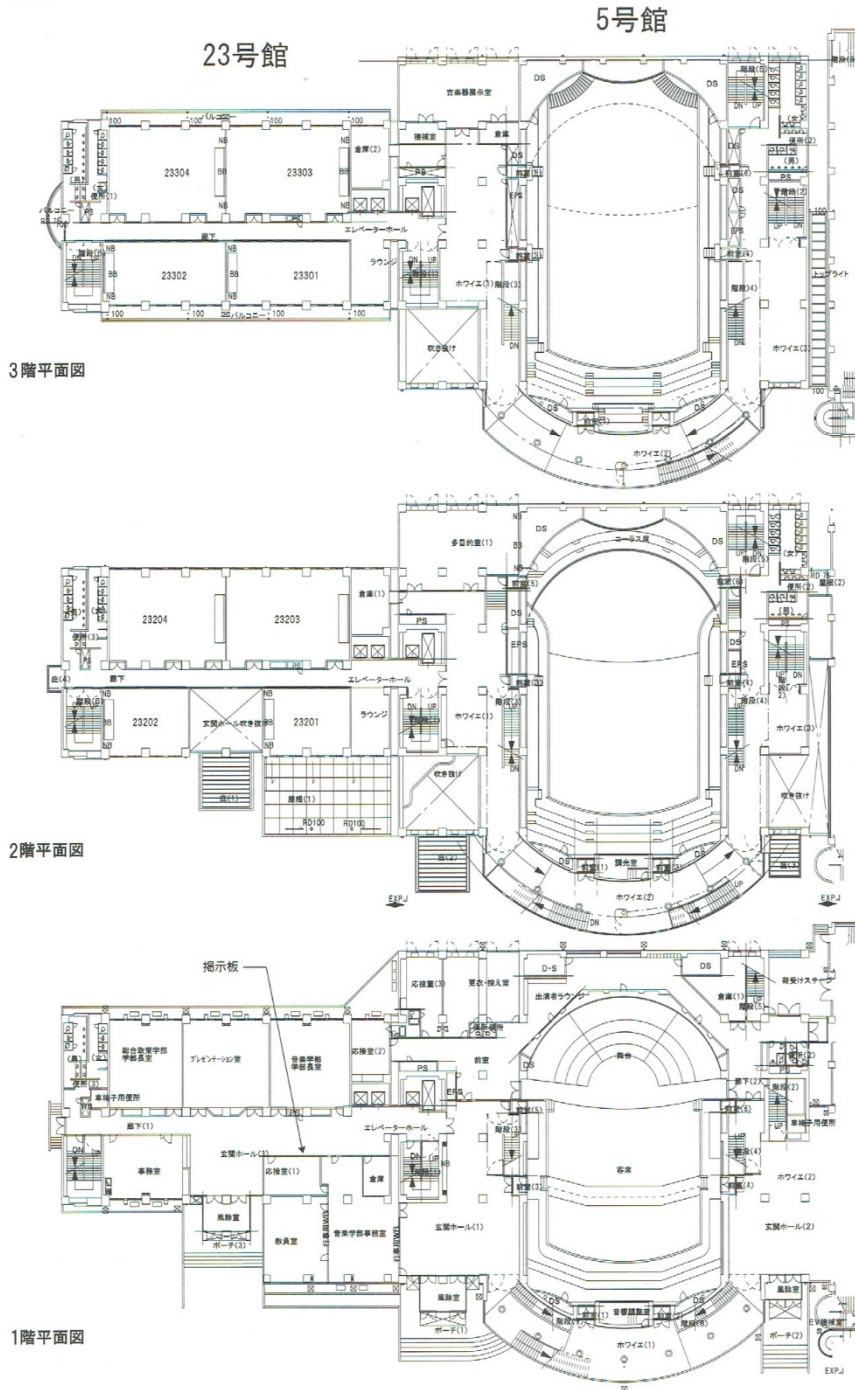


 **FamilyMart**
09:00~16:00

徳島文理大学 敷地平面図

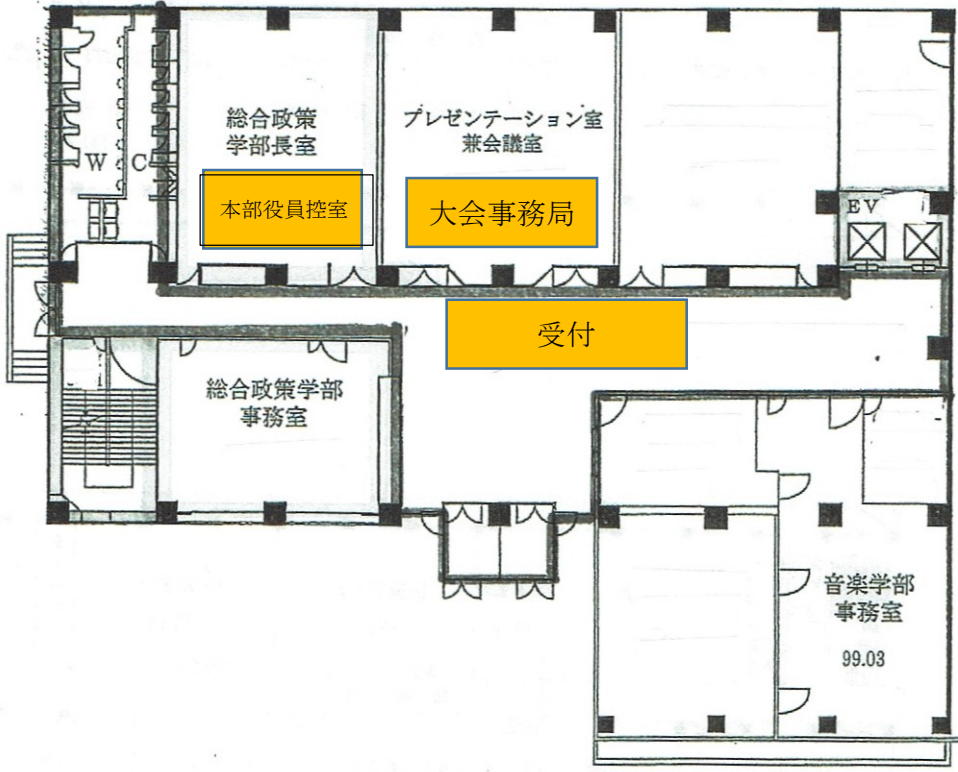
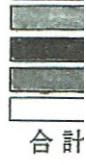
ワークショップ 研究報告会場案内図

徳島校 5-23号館平面図(1) 1/400

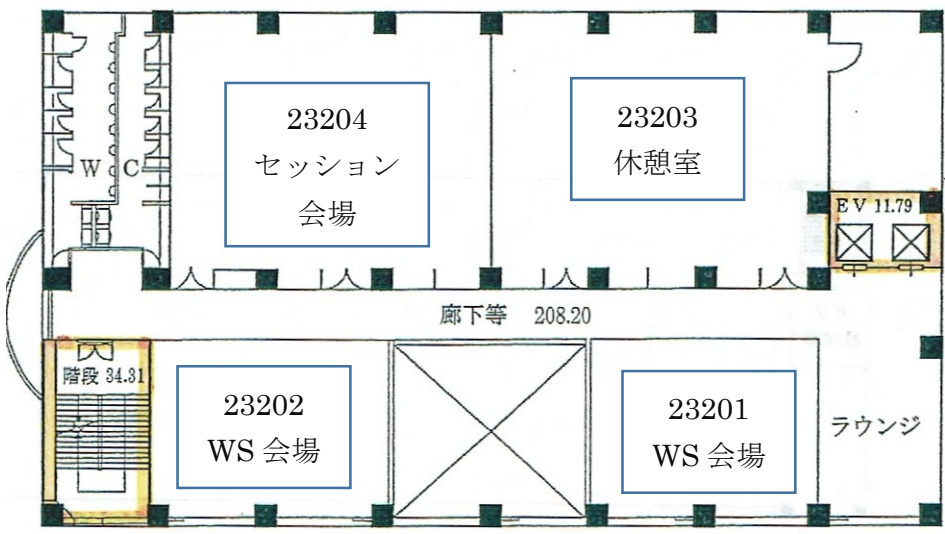


23号館各階平面図

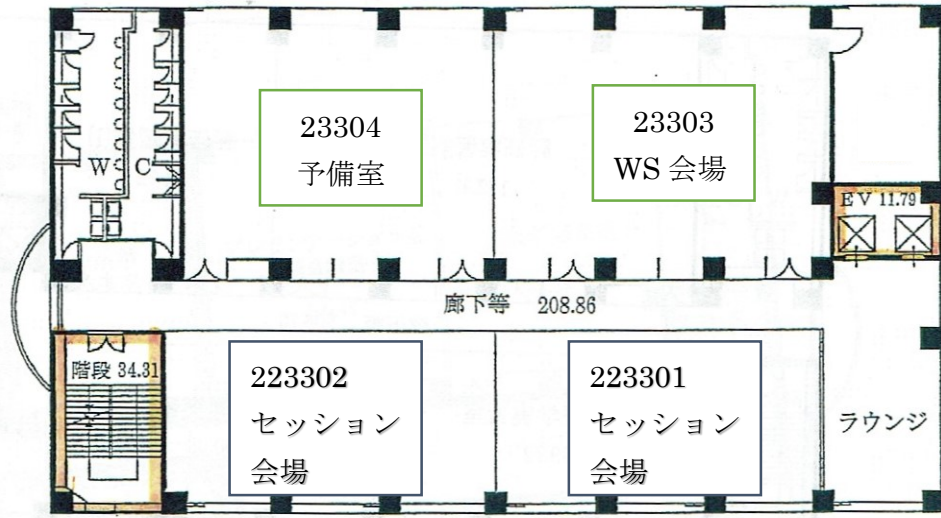
23号館



1階



2階



3階

全体プログラム				23号館 2階				23号館 3階		
9月12日		教室	23201	23202	23203	23204	23301	23302	23303	
	9:00	受付開始	23号館 1階							
9:45	12:15		ワークショップA1	(理事会準備)	休憩室	セッションA1 まちづくり 大学	セッションA2 環境・水	セッションA3 文化・スポーツ	ワークショップA2	
12:15	13:10	昼食		理事会	〃					
13:15	14:00	開会式	2号館アカンサスホール							
14:15	17:30	シンポジウム	2号館アカンサスホール							
18:00	19:30	意見交換会	7号館 2階「パウゼ」							
19:40	20:00	移動								
20:00	20:40	地域文化研究会	阿波踊り会館（市内）							
9月13日										
	8:00	受付開始	23号館 1階							
9:00	10:30		ワークショップB1	ワークショップB2	休憩室	セッションB1 公共人材①	セッションB2 エネルギー	セッションB3 地域連携		
10:45	12:15		ワークショップC1		〃	セッションC1 公共人材②	セッションC2 地域	セッションC3 移住・人口		
12:15	13:15	昼食			〃					
13:15	14:45		ワークショップD1	セッションD4 廃棄物	〃	セッションD1 公共人材③	セッションD2 インフラ	セッションD3 政策評価		
15:00	16:30		ワークショップE1	セッションE4 防災・連携	〃	セッションE1 情報	セッションE2 公共施設	セッションE3 働き方	ワークショップE2	
16:30	17:00					閉会式				
	17:18	文理大前発	徳島駅前行	路線バス						
	17:37	文理大前発	徳島駅前行	路線バス						

開会式

13:15～14:00

2号館アカンサスホール

- 大会会長挨拶 山中英生（徳島大学教授）
- 開催校挨拶 たむらよしゆき 田村 禎通（徳島文理大学学長）
- 学会会長挨拶 坂野達郎（東京工業大学）
- 学会賞授与式

シンポジウム

2号館アカンサスホール

14:15～17:30

◆シンポジウム趣旨説明 14:15～14:30

正岡利朗（高松大学教授）

◆基調講演 14:30～15:15

演題：「V S 東京の意味するもの」

飯泉嘉門（徳島県知事）

◆シンポジウム 15:20～17:30

テーマ：「地方創生大競争時代と計画行政」

パネリスト：山本俊也（徳島県政策創造部部長）

古川康造（高松丸亀町商店街振興組合理事長）

土井健司（大阪大学教授）

林大介（道の駅よって西土佐駅長）

守時健（高知県須崎市職員）

コーディネータ：正岡利朗（高松大学教授）

シンポジウム主旨

正岡利朗（高松大学教授）

今大会のテーマは、「地方創生大競争時代と計画行政」です。2014年9月に「まち・ひと・しごと創生本部」が設置されて以来、特区の創設や政府機関の地方移転、各種の人材支援などの政策が順次実施されています。ただし、各自治体から見て、これらの中心をなすのは「新型交付金」であり、各自治体は「地方版総合戦略」を策定し、「KPI（重要実績評価指標）」を設定して、それぞれの独自の取り組みにより地域の活性化を目指すべし、とされています。すなわち、国による地方創生の大号令の下、例外なく財政状況が乏しい各地の自治体は、まずルールに則り交付金等を確保せねばならず、その上でさらに実施した施策の成果を試されるわけです。つまり、以前のように自治体を一律に扱うという状況ではなくなっているということであり、これはまさしく「大競争時代」と表現されるものでしょう。

他地域に先んじて人口減少及び高齢化が著しい四国の状況を鑑みると、この大競争時代を乗り切るだけの創意工夫を発案し、早急に実行に移していくことが喫緊の課題となっています。具体的には、街づくり、公共交通、移住の促進、農商工の連携、地域資源の活用などの諸分野で、優れたコンセプトと実行力を備えた体制づくりを行っていかねばなりません。そして、その推進を行う上で得られた各種の知見をどのように行政に取り込むべきなのか、このことがまさに計画行政に求められているのでしょう。

今回のシンポジウムでは、このような状況に直面している四国から、特徴ある取り組みを行っている自治体等に登壇していただき、その詳細な内容をお伝えいただきます。その上で、みなさまとのさまざまな建設的な議論が交わされるのを期待しております。

ー地方創生大競争時代における徳島県の取組みー

徳島県知事 飯泉 嘉門

1. はじめに（我が国の現状）

現在、我が国は、「人口減少」と「災害列島」という国難とも呼べる課題に直面しております。国においては、少子化や東京一極集中に歯止めをかけるため、「全世代型社会保障改革」や「東京23区の大学定員抑制」など、「地方創生の実現」に向けた施策が進められるとともに、頻発化・激甚化する自然災害に対応すべく、「防災・減災、国土強靱化のための3カ年の緊急対策」が展開され、平時から「災害に強いまちづくり」を目指す「事前復興」の取組みも重要性が高まっているところです。

一方、いよいよ目前に迫る「ラグビーワールドカップ2019」をはじめ、「東京2020オリンピック・パラリンピック」、「ワールドマスターズゲームス2021関西」の3大国際スポーツ大会、さらには、2025年の「大阪・関西万博」などのビッグイベントを控え、「新たな時代の幕開け」にふさわしい、経済好循環や地域活性化の好機を迎えようとしています。

2. 徳島県の軌跡

徳島県では、大都市にはない価値を徳島から発信する共通コンセプトとして「vs 東京」を掲げ、「一步先の未来」を具現化するため、地方創生の先導役として様々な取組みを実践して参りました。

消費者庁等の「消費者行政新未来創造オフィス」の本県開設と新次元の消費者行政・消費者教育の展開、ひいては、消費者行政の発展・創造にふさわしい機能と規模を備えた新たな恒常的拠点の2020年度発足、また、大都市圏からの人の流れを生み出す「とくしま回帰」の加速、全国屈指の光ブロードバンド環境を活用した情報通信関連企業やサテライトオフィスの集積、LEDを基軸とする産業振興や6次産業化のさらなる推進など、全国のモデルとなる各種施策に取り組み、「一步先の未来」を着実に実現してきました。

3. 未知の世界の羅針盤たれ！「とくしま『未知』しるべ戦略」

平成から令和へと新たな時代の幕が開き、「第4次産業革命」の進展や、TPP11、EPAによる「巨大経済圏の形成」など、国内外の環境が劇的に変化する中で、眼前には、これまでの常識が全く通用しない「未知の世界」が広がります。この「未知の世界」を切り拓き、「持続可能な社会」の実現を目指していくには、地方独自の「創意工夫」と「チャレンジ精神」の発揮はもとより、国・地方はじめ多様な主体が緊密に連携・協力し、世界を先導する取組みを積極果敢に実践していくことが不可欠です。

こうした中、日本が初めて議長国を務めた本年6月開催の「G20サミット」のサイドイベントとして、同9月5日・6日には、本県を会場に「消費者政策国際会合」が、「消費者庁と徳島県との共催」で開催され、まさに世界規模での消費者問題・SDGsの議論が展開されます。

今回の講演では、日本全体を持続可能な社会へと導くことが期待される、地方創生の旗手・徳島ならではの「知恵と工夫」に一層の磨きをかけ、その期待に応える「未知の世界の羅針盤」として、本県が目指すべき将来の姿と、実現に向けた挑戦である「とくしま『未知』しるべ戦略」についてお話させていただきます。

